

目指す幼稚園像	全人教育の理念を重視した心の教育 1. 心育 2. 意欲 3. 態度の育成 ・元気で明るい子 心のやさしい子・創造力豊かな子 ・意欲的に取り組む子
本園度の重点目標	・国・県・市・学園の方針を基に地域・保護者のニーズに対応した幼稚園教育を進めていく。 ・体験活動の重視と生きる力の基礎指導を発達に応じて指導を深める。 ・家庭・地域との連携を図り、教育活動の理解と協力を得る。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	改善の余地あり(4割以上)
	D	問題がある(4割未満)

出席者 幼稚園関係者 7名 幼稚園職員 3名

番号	評価項目	現状と課題	具体的内容	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題	評価	学校関係者評価 実施日 平成31年3月12日
1	◎教育方針・教育目標の具現化 ①心を育てる(根っこを育てる)教育と体験の重視 ②おもしろい・意欲・態度の育成 ③指導計画の実践 ④基本的な生活習慣の自立 ⑤人権教育の徹底と重視 ⑥園内研修の充実	・教育目標を具現化した学級経営に生かしている ・教育方針を保護者に、学級懇談会、園便り等で知らせ、理解と協力を得ている ・ヨコミネ方式を取り入れた教育の実践で意欲や自信が育ってきている。 ・学年単位、個別的な指導の継続性が必要である。 ・園全体の方針として行う。 ・日常の生活や遊びの中で相手は傷つく言動を見逃さない指導に努めている。必要に応じて、短時間の中でも、職員の意識を高め合う研修を進めている。	・教育目標を学年ごとに具体化した学年の育ちを丁寧に見てきた。 ・幼稚園行事や参観をとおして、子どもの育ちを伝えてきた。 ・年齢・個人差を考慮した指導実践を行い、学年の育ちが見られた。 ・学年ごとでの育ちと指導の工夫を共通理解し体験を積み重ねる計画にしている。 ・あいさつ・身の回りの始末・姿勢・靴を揃えるなど日常の生活習慣を発達に応じて指導してきた。	・指導計画に基づいた指導がほぼできた。 ・週日案による評価・計画と行事評価など全職員で話し、共通理解のもと進めている。 ・保育者の意識の持ち方で変容が見られる。 ・学年目標を明確にしている。 ・職員が共通理解を持ち、小さなことを繰り返して丁寧に指導していく。 ・職員同士の気づきや小さいことでも丁寧に扱い、即改善をしていく。	A	・3・4・5歳児の活動や内容のつながりをさらに充実させていく。 ・園目標の評価を園便り・ホームページで公開(子どもの育ち)の写真等で具体的に示す。 ・ヨコミネの教育の計画的指導と子どもの個人差を丁寧に捉えていく。 ・心の根っこを育てる視点を職員が意識して保育にあたる。 ・評価の視点を子どもに育てほしいこと、育ててきたことの共通理解を深めていく。 ・保育者の学年別、個別的園児の方を大切に、丁寧に指導をしていく。 ・チームティーチング方式を取り入れ、子ども同士の言動を丁寧にみていく。 ・園児の事故対応、保護者対応など、当面の課題を研修で深めていく。	A	・ヨコミネを行うことにより、小学校へ向けての自信につながり、良かった。 ・小学校の子どもたちを見ていると、星野学園幼稚園に子はレベルが高いと感じる。 ・年少のメロディオンは、良いとの意見があった。 ・立ち止まって挨拶ができることは、素晴らしい。外へ出た時に、ほめられることが多い。 ・園で練習をしてくれたと助かる。親が伝えるより、子どもに伝わる。 ・様々な面で、自らの気付きが増えた。
2	◎園児の健康・安全の徹底 ①健康・安全教育の重視 ②施設・設備等の安全重視	・感染症の予防を徹底していく。 ・安全に対する訓練は、日々の指導と関係機関の協力を得て行い身に付けていく。 ・遊具の点検を複数職員の見で見ていく。 ・施設・設備面での点検や事故防止に十分配慮している。 ・砂場、園庭の日常点検の実施。猫の異対応に苦慮している。	・手洗い、うがい等の基本的指導を徹底してきた。 ・感染を防ぐための保護者協力を行う。 ・避難訓練・地震訓練、誘引防止指導を関係機関の協力で行った。 ・色々な場面想定と日常訓練を行い問題点を改善していく。 ・保護者のニーズに応えられるように内容の改善を図ってきた。 ・室内、テラスなどを走ってはいけない指導を徹底してきた。	・インフルエンザ・ノロウイルスの蔓延を防ぐ保護者の協力を得られている。 ・警察・消防署の指導を受け、定期的な実践をしてきた。 ・事故防止の徹底を随時指導し、職員の意識の高揚に努めていく。 ・子ども達の主体的な取り組みや異年齢のかかわりが育ってきた。	A	・個人差を踏まえ、指導を徹底していく。 ・インフルエンザの蔓延を防ぐ保護者協力を徹底する。 ・安全面の個別指導は丁寧に扱い、必要に応じて援助を日常的に行う。 ・安全指導は各学級で日常的に指導し、行動の仕方を守らせていく。 ・継続で実施し、子どもの特性を理解しながら、危険な場面を想定し実施していく。 ・通園バスの安全指導、徒歩通園者の通園路等の安全指導を行う。	A	・インフルエンザの時期は、バス内マスクを着用するなど、対策をしてはどうか。マスクの使い方も指導していく。 また、流行りの状況を掲示板や手紙などで、知らせていただけると助かる。 ・トイレのスリッパは改善されていく。
	◎幼稚園行事の工夫と子どもの育ち	・子どもの体験の場を増やし、特に年中・年長の共通体験が必要である ・職員の協力が大切なので、子どもの楽しみや興味を中心に、子どもを育てる視点で行事を進めていく。 ・行事の目的を押さえ年ごとに、子どもに経験させたいこと、育てたいことを丁寧に指導していく。	・子どもの体験を重視した内容の工夫改善がされた。 行事を具体的に子どもの視点で改善することで、子どもの意欲や育ちが確かめられた。 ・行事体験を通し、年中・年少児からは憧れの気持ちがあった ・運動会・発表会・音楽会など子どもの興味を大切に内容の改善を図った	・職員の資質向上と共通理解により内容に深まりがみられてきた。 ・学級枠を超え、園全体の取り組み姿勢がでてきた。 ・年長児と行事を行うことで、年中児の育ちはしっかりしてきた。	A	・行事の目的を押さえ、各学年ごとに、子どもに経験させたいこと、育てたいことを丁寧に指導していく。 ・年間行事の流れに行事を加え、行事のためにならないように見通しのある計画に努める。	A	・マラソン大会を開催してほしい。園庭を毎朝走る習慣があることは良い。 ・子どもメインの行事が増えて、保護者も子どもの可能性に驚くことがある。新たな発見もある。すべての行事において、良くなったと感じる。 ・卒園式に、年中組全員参加できる環境は良いと思う。年中組に送ってもらえることもうれしく感じる。 ・音楽会等について、学級差が大きくなりました。
3	◎家庭・地域との連携 ②小学校との連携 ・保護者行事・保育参観の工夫	・行事中心の参観が多い。保護者参加の行事等も求められる。 ・地域行事に参加している(団地教会、老人施設訪問) ・小学校の授業参観・給食参観が求められる。 ・休日参観を重視し、保護者の利便性を考慮してきた。	・保護者の協力と教育の理解 ・地域の小学校で交流体験に参加している。 ・保護者のニーズに応えられるように内容の改善を図ってきた。	・バス通園が主流で保護者とのコミュニケーションが不足している。 ・家庭訪問・個人面談・連絡ノート・電話連絡等で保護者との連携を深めた。 ・行事役員・職員のコミュニケーションが図れた。	B	・園便り、クラスよりの読みやすい、わかりやすい工夫が求められる。 ・文字を読まない、多忙で1ヵ月単位の計画を把握できない保護者が多くになっている。 ・子どもの不安解消に繋がる連携が求められる。 ・保護者の行事協力は職員の指導と協力が求められる。	B	・保護者との連絡の取り合いはメモで行っているが、こちらのミスがあったり、うまく連携がとれなかったりすることがある。連絡帳を用意するか、メモを同じ形式にするかなどの対策はどうか。 ・バスに乗る先生がかわることが多いので、顔と名前が一致しない。名札を用意してほしい。 ・懇談会が減ったため、保護者同士の関係が希薄になったと感じる。さみしい。役員会の集まりも少なくなった。そうすると、会長・副会長に負担がいく。しかし、仕事をしている保護者のかたもいるので、難しい。
4	◎子育て支援の充実 ・親子プレ教室 ①未就園児保育による親支援 ②預かり保育の充実	・3歳児と交流を持ち、ヨコミネの文字遊びやお遊戯などを楽しめた。 ・年長組を中心にリトミックが好評で親子で楽しめた。 ・休日行事等、振替休日の利用者が増加している。 ・3歳の新入園児の長時間保育への配慮が必要である。*必要に応じて午睡が必要である。	・在園児との交流で、在園児が小さい子のお世話をすることで優しさや思いやりの心が育ってきた。 ・園長コーナーを作り、紙芝居・ロゴ画を継続的に行った。 ・8時からの預かり保育対応。 ・緊急時の受け入れを行ってきた。	・在園児との交流保育を進め、園の特色を生かしたプレー教室を実施できた。 ・在園児と未就園児との交流は異年齢の良い体験となった。 ・保護者の多様なニーズに対応してきた。(長時間保育の受け入れ・緊急時の受け入れ) ・定員枠を超えた場合は職員増で対応してきた。	B	・年長組を中心にリトミックの継続を行う。 ・園長コーナーを作り、紙芝居・ロゴ画を継続的に行った。 ・担当職員の設置と系統的計画の流れを作成する。 ・本園の特色を生かした内容を深める。 ・費用の問題を考慮し工夫が求められる。 ・低年齢児の長時間保育の対応工夫が必要である。 ・保育中の疾病に対し、保護者の迎え等の協力が必要である。 ・学級密に注意し、園児の経験の共通化を図る。	B	・一番大変な時期に見てもらえて助かった。ありがたい。周りの保護者から、ひよこびよの評判が良い。 ・縦割りの保育は、子どもにとって良い影響を与えていると思う。縦割り保育をもう少し売りにしても良いのではないかと。 ・チラシを、さらにたくさん配り、PRしていく。
5	会計・庶務学級事務を適切に行う	・学園本部の指導で適切に行われている。 ・教務会計を職員が行うことが求められる。	・学園監査を毎月受け、正確に処理されている。	・保護者徴収の使途や会計報告の改善を図る。	B	・職員と事務で連携を図り実施していく。	B	
6	情報開示 ①緊急連絡網 ②公文書の整理 ③ホームページの活用 ④保護者同士の情報の仕方	・緊急連絡網の趣旨の徹底。 ・文書扱い等個人情報保護の文書で必ず書き、扱いの共通理解を徹底する。	・緊急連絡網の趣旨の徹底、スムーズに実践されている。 ・ホームページは保護者の了解を得て積極的に子どもの育ちを発信している。必要な情報のみとし、回収をしている ・園便り等発信と読む側の関心度にズレも見られる	・保護者のライン使用に園児名を入れないように指導の徹底を図る。 ・園児の怪け、急病の時のあらゆる情報を保護者と密にれんらくできるようにする	A	・ライン使用には十分の注意をはらう。 ・視覚教材の工夫で見学者等に教育内容を有効に伝えている。	A	・写真、ネット販売できないか。車でくると、駐車場もなく、不便。歩きや自転車のかたは、感じない。そのため、写真販売日や参観日など行事と重なること助かる。 ・園たよりに、その月の集金の詳細をのせてほしい。 ・お知らせは、おたよりにすべてのせてほしいという意見と、文章がたくさんあると見えないという意見があった。